

救急車応需率

93.4%

測定値の定義・計算方法

Process

分子：

救急搬送受け入れ台数

分母：

救急車受入要請（搬送先相談を含む）

活動のきっかけ

救命救急センターとしての機能評価において、救急搬送受け入れ件数および救急車応需率の向上が重要である。今年度は救急車応需率95%を目標に掲げ、救急受け入れ体制の強化を図る。救急車の応需には、救急科のみならず、病院全体としての病床確保、各診療科との連携、看護師の確保・活用が大きく影響することから、不応需事例等を調査・分析し、お断りの要因を明らかにするとともに、病院全体で改善可能な事項を検討する。

改善活動部門

- 救急集中治療部
- 救命救急センター
- 総務課
- 災害救急情報管理室

考察

上手くいったこと	課題と感じたこと
病床が満床に近づくと応需率が低下するため、病院へ一定数の空床確保を要請した。ベッドコントロールと連携し、救命病棟から一般病棟への転床等を実施することで、救急患者を受け入れるための病床を確保することができた。	救急車お断り用紙について、記入漏れや判読困難な記載、日付の未記入等が多く、正確な統計データの把握が困難な状況である。2026年度はNSERへの入力を徹底することで、より正確なデータ収集・統計を目指している。病床が満床に近づいてからの対応では、救急患者の受け入れに必要な病床の確保が難しい場合があるため、今後は病床の稼働状況を早期に把握し、ベッドコントロールと連携しながら、より早い段階で急性期転院搬送、一般病棟転床等の調整を行う必要がある。